

総評

例年に比べ、解答欄をなんとか埋めようと努力している様子が見え、解答が多かった。時間制限の厳しい模試ではなかなか納得のいく解答を作り上げることは難しいので、復習する際には、時間を気にせずに丁寧に解答を作ってみることが大切だ。古文・漢文は全訳や書き下しを自分で作り、内容を理解したうえで、再度問題に取り組みとよい。

問題別講評・採点基準

一 評論

一 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。全問正解できている答案は少なく、a「顧慮」を「考慮」「固慮」、e「包摂」を「包節」「包説」などと誤るものが目立った。しっかりと復習しておく。

二 [採点基準]

「a 非正規雇用者として b 補助業務に従事する」という c 雇用形態」を押さえて—— 9点
 * a部3点、b部4点、c部2点。
 〈基幹的な職種以外の仕事〉(パートや派遣労働者)という方向でまとめている答案が多く、a・cの要素を網羅できているものは少なかった。解説をよく読み、傍線部前後の文脈を押さえておくこと。

三 [採点基準]

「a フリーターのネガティブ・イメージを b 若年男性に c 負わせ、d 一人前の職業人としての自覚が薄い者 c というレッテルを貼り、e 彼らを正規雇用には値しないと企業が見なす」という点を押さえて—— 14点
 * a d部各3点、b部1点、c部2点、e部5点。

〈若年男性を正規雇用から排除する〉という大枠は押さえられている答案が多かった。どのようにして排除されているのか、制限字数に合わせて解答を作成するのは難しかったかもしれない。若年男性がどのようなレッテルを貼られているのか、解説を読んで整理しておく。

四 誤答が目立ったのはイ。解説で示した通り、「フレキシブル」の語義を押さえて選択肢を検討することが求められる。問題文中の表現が含まれる選択肢をそのまま選ぶのではなく、傍線部の正確な意味を押さえて検討しよう。

五 [採点基準]

「a 解剖学的性差に基づく男性の正規雇用は止めて b 競争に勝った男性を〈真の男性〉と見なし、正規雇用者にする」という点を押さえて—— 14点
 * a b部各5点、c部4点。

〈男闘士の絆〉〈真の男性〉というキーワードをどう説明するかに苦勞している答案が多かった。〈競争に勝ち残れば誰でもそこに加わることができる〉と

前向きな方向でまとめている答案も見受けられたが、問題文末尾の結論を踏まえれば、〈家父長制論理に立脚した上で、競争に勝った男性のみを差別する〉ということになる。自分の答案が押さえられていなかったポイントを確認しておくこと。

六 誤答は分散していたが、やや目立ったのはウ。「ネオリベリズムなジェンダー秩序の論理」とは、「近代的性別分業イデオロギー」を単に肯定するだけではなく、さらに選別を加えるというものになっている。解説をよく読み、正答選択肢を確認しておく。

二 小説

一 a b cともにだいたいよくできていたが、bの「性懲りもなく」は、aの「余儀なく」、cの「融通」などと比べると多少なじみが薄かったのか、アイウの誤答が散見された。「性懲り」の「性」は〈本性〉のことで、〈心の底から懲りること〉を意味する。

二 [採点基準]

「a あまりにも頻繁に父からカメラのレンズを向けられていた母を b 気の毒に思う一方、c そこに潜んでいた母に対する父の愛情を d ほほえましく感じている心情」という点を押さえて—— 11点
 * a b c部各3点、d部2点。

〈母〉に対する心情だけを答えている答案も目につくが、設問には〈父母に対する心情〉とあるの

で、〈父と母に対するそれぞれの心情〉、あるいは〈父と母の関係に対する心情〉として答えたい。そうした細かいところに気をつけて解答できるようになれば、点数は伸びる。

三 全体的に、〈私がそのように感じた理由〉をよく読み取れている。イと答えた人が少数いるが、少々考えすぎてしまったのかもしれない。娘である「私」は、〈母が幸せだったこと〉を疑ってはいない。

四 こちらもよくとらえられていたが、前問の三よりも選択肢が紛らわしかったようで、イウエの誤答が散見される。選択肢のどの表現が不適切なのか、解説をよく読んでおいてほしい。

五 「採点基準」

〃 a 「魂を抜き取られる」という冗談を否定しなかったため b 母が病気になったのではないかと後悔する一方、d 好きな写真を断つて e 母の病気が良くなるよう f 願掛けをしようとしたから〃を押さえて 12点

* a ~ f 部各2点。

形の上では理由説明問題だが、実は指示語の内容を、本文を要約してまとめればよい問題なので、方向としてはだいたいよくできている。ただ、細かい表現の部分で点数に差が出た。「母が病気になったのは自分の言動が原因ではないかと自負し……」と書いた人がいるが、「自負」は〈自分の行動などに自信と誇りをもつこと〉である。

六 正答が一番多かったものの、アイエオにも答が分散した。表現の特徴についての問題は、選択肢が長くなることが多く、内容をしっかり比較しながら読解することが意外と難しい。選択肢のどの部分が不適切なのかを確実に見抜けるように、十分な練習を積んでほしい。

三 古文

一 四つとも正解できた人は、「に」の識別については自信をもつてよいだろう。aの「格助詞」が意外と盲点だったようで、ウエとした誤答が目につく。その結果、bcに入れるものがなくなってしまう、全体がガタガタになってしまったと思われる人もいる。品詞の識別は古文読解の基礎となるため、試験に頻出する。今回の「に」の識別はその代表なので、しっかりと復習しておきたい。

二 1の「いうに」を「優に」と解釈するのは難しいだろうと予想していたが、やはりアウの誤答も多かった。イと答えた人は惜しい。言葉の意味としては誤りではないが、ここは〈式部に対する評価〉であることまで考えて判断しなかった。

2も予想通りエの誤答が多いが、「こまやかにて」を「(とても)行き届いた」風情で」と解釈するのは意訳に過ぎるので、正解のイに及ばない。

三 「採点基準」

〃 a 保昌が式部を b 恋しく思う c 様子を押さえて 6点

* a部3点、b部2点、c部1点。

この「思ひ」が〈恋愛感情〉であることはほとんどの人が押さえていたが、細かなところで差がついた。まず、設問には「人物関係がわかるように」とあるので、〈保昌が式部を(恋した)〉という二人の関係性を正しく示すことがまず重要。さらに、この「思ひの色」は、女院が保昌の気持ちを悟ることになった契機となるものなので、〈表面に現れた様子・気配〉であることまで明示したい。

四 「採点基準」

〃 a 保昌が、b 院の意向に遠慮して式部への恋心を打ち明けられないで、c 神仏に祈って気持ちを抑えようとしたものの、d なお募る思いに苦しんでいると e 知ったから〃と説明して 10点

* a e部1点、b c部3点、d部2点。

院が傍線部のように思った理由は、傍線部の直前に「……など申し上げれば」と理由を述べる表現があるので、保昌が申し上げた内容を要約すればよいとわかる。だから、本文全体の大意を押さえている人は、細かい表現での減点はあっても、だいたい得点できている。しかし、そもそも人物関係を読み取れなかった人も多く、あまりできはよくない。〈保昌が女院に恋している〉などと誤解した人は、本文を最初から丁寧に読み直して、どこでそう読み違えることになったのか、確認しておいてほしい。

五 和歌の解釈に関する問題で、難しかったはずだが、意外と正答率は悪くない。あてずっぽうで選択した人もいるだろうが、(一番それらしい選択肢を見抜く力)も大切ではある。ただ、選択肢が受験者を引っかけないように作られている場合には通用しないので、そればかりに頼るのはやめよう。誤答はウエオに分散した。解説を参考に、誤答となるポイントを確認しておいてほしい。

六 設問に「相手にどのようにしてほしいと詠んでいるのか、『…:てほしい。』につながる形で」とあるので、歌の句末の「なん」が(他に對する自分の望みを表す終助詞「なん(なむ)」であることはすぐに見抜けるはずである。

〔採点基準〕

Y

〃 a 逢瀬の思いが冷めないうちにすぐ b 返事を送つ(てほしい。)〃 を押さえて 7点

* a 部 4点、b 部 3点。

句末に「文結はなん」とあることから、(手紙を送つてほしい)という意味の歌であることをまず見抜く。さらに上の句から、(夢のような逢瀬の気分が冷める前に)などと補足説明をすればよい。

Z

〃 a ひとり寝の夜の b 袖を濡らす涙の多さを c 知つ(てほしい。)〃 を押さえて 7点

* a b 部各 3点、c 部 1点

(こちら句末に「知らなん」とあることから、何かを(知ってほしい)と訴えている歌であることを

まず見抜く。(一人寝る夜の袖(を知ってほしい)の意味を正しく解釈するのは難しかったと思うが、解説をよく読んで、次に同じような問題が出たときには、きちんと対応できるようにしておこう。

四 漢文

一 特に c 「がえんぜず」ができていないものが目立った。「サ変動詞」という限定に答えようと「こうせず」「ぜせず」などの読みを作り出している答案が見受けられた。重要語なので、しっかり押さえておくこと。

二 誤答で目立ったのはア。使役の句形の解釈が難しかったかもしれない。使役の助動詞「令」+動詞「還」+目的語「車」|| (車を還させる) という構造になっていることに気づけるかがポイントだった。

三 〔採点基準〕

〃 a 豈に b 必ずしも c 罪に伏せ a んや〃 と書き下して 5点

* a b 部各 2点、c 部 1点。

反語の「豈に…:んや」は押さえられているものが多かったが、完答できている答案は少なく、「必」を部分否定の「必ずしも」と読むことを押さえられていないものが目立った。全部否定と部分否定についてしっかり復習しておこう。

四 〔採点基準〕

〃 a 石渚よ、(お前は) b 執法官(政廷)の仕事に c 戻りなさい〃 と訳して 7点

* a 部 3点、b c 部各 2点。

(王が石渚に呼びかけている)ことは押さえられても、「事」が何を指すか読み取れていないものが多かった。問題文全体の文脈を押さえて解釈する必要があるので、全訳を参考に、傍線部に至る流れを確認しておくこと。

五 〔採点基準〕

一

〃 a 殺人者は逮捕処刑されるといふ法を破つたので b 政廷として国法を守り死罪となつた行為〃 を押さえて 8点

* a 部 3点、b 部 5点。

二

〃 a 親を裁くことに耐えられないとの私情から、 b 殺人者である父を逮捕処刑しなかつた行為〃 を押さえて 8点

* a b 部各 4点。

方向違いの答案も見られたが、問題文の内容をおおむね把握できていると思われる答案が多かった。ただ、「忠」と「孝」を整理して説明することは難しかったようだ。石渚は父の身代わりとして処刑されたのではなく、国法を守るために死罪となつたのである。解説をよく読んで整理しておこう。